



「主体的な学び」推進委員会通信

令和7年度小郡市指定校〔小郡中学校〕授業交流会

小郡市教育長 秋永 晃生

まずは、素晴らしい姿に高まっている子どもたちの様子を、授業を通して見せていただいた小郡中学校の先生方に心からお礼を申し上げます。小郡市がめざす、『自律』（夢や願いに向かって進もうとする）、『共想』（人とつながり合って心を働かせようとする）、『郷生』（喜びあふれる豊かな郷土を創ろうとする）という3つの姿を7つの授業の中で、具体的にお示しいただいたと感じました。

授業づくりの軸は「自己調整」とアウトプット。そのために最も大切なのは強い課題意識です。授業では「もっとよりよい場にしたい」「さらによりよい表現に高めたい」「一層深く理解したい」と子どもたちが探究心・追究心を高め、自ら学びを調整しようとする姿がありました。

小郡中体育館には、「百折不撓（撓）」～今日の学びを明日につなげる～というスローガンが掲げられています。日常の中でもこうして「自己調整」を日々繰り返していることが生徒の心を錬磨し、学びの基盤となっているのでしょう。また、安心して豊かにアウトプットができる「友とのつながり（絆）」が小郡中の築かれてきたもう一つの価値高い伝統として学びの中に生きていました。公開授業は、普段を大切にした教育改善の積み重ねの結果であることを改めて実感いたしました。

最後になりましたが、授業実践、協議会の進行とまとめ、子どもたちへの支援、駐車場案内・・・と、協働してご尽力いただいた小郡中の先生方、協議会の中で建設的な意味あるご意見等を出していただいたご参会の先生方に重ねて深く感謝を申し上げます。ありがとうございました。

小郡中学校 山本 拓 校長先生より

本校での授業交流会のために、市内の小中学校の先生方には貴重なお時間をいただき、また、大変ご多用の中、ご参加いただきましたことに厚くお礼を申し上げます。また、これまでご指導いただいた、小郡市教育委員会の皆様、福岡県教育庁北筑後教育事務所の指導主事の皆様にも心より感謝申し上げます。

本校の研究概要のプレゼンテーションでもお示しましたように、目指す生徒の姿の一つである「自己調整力」は、生徒が自分の学習状況を把握し、自分で目標設定し、自分で進捗状況を評価するプロセスを繰り返すことを通じてはぐまれていくものです。その手立てとなるものが未だ本校では不十分であり、今後も校内研究の中で検証を進めていかなければなりません。交流会の中でたくさんのご示唆をいただいたことを基にこれからも授業改善の日常性と共同性を高めていく努力を続けていきます。ありがとうございました。

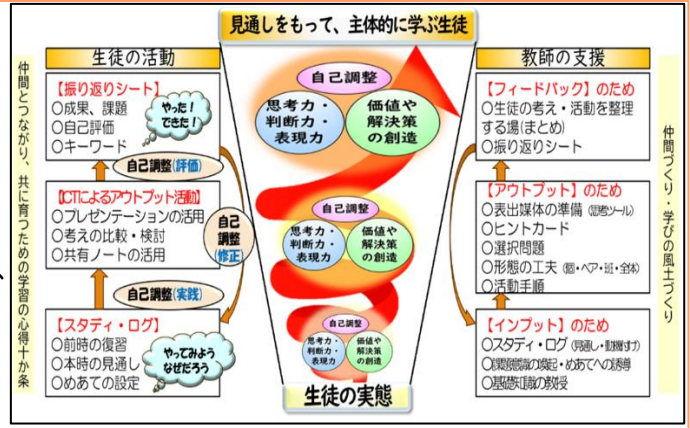
研究主任 田中 ゆかり 先生より








本校では「見通しをもって、主体的に学ぶ生徒」を目指し、この三年間取組を進めてきました。特に今年度は、「学び続ける力を高める授業スタイルの定着を通して」を副主題に掲げ、「スタディ・ログ」「ICTを活用したアウトプット活動」「振り返りシート」を生徒の学習活動に位置付けた授業づくりを行ってきました。特に、「ICTを活用したアウトプット活動」については、単なるアウトプット活動とは違い、「生徒主体の学びを実現させるための手立て」という認識のもと、各教科においてさらに工夫を重ねていかなければいけないと考えています。各教科・授業での取組を共有したり検討したりする場を今後も設定し、授業改善を進めていきたいです。

主幹教諭 松島 光 先生より

本校では、毎年、一人一回授業研を行い、研究の成果と課題について意見交流を行っていますが、昨年度までは、なかなか授業研を行う時間がとれず、年度末に駆け込みで授業研を行うことが多かった現状がありました。そこで、本年度は、夏季休業中に、授業交流会までの時間割を作成・配布することで、交流会までに全ての先生に授業研の計画と日程を確保していただき、研究の検証が計画的に進められるための手立てをとりました。また、時間割表の中に、いつ・誰が・どのクラスで授業研を行うのかを提示し、授業がない先生は基本的に自分の教科を超えて、授業参観するように伝え、徹底するよう心がけました。また、協議を深めるために、週に一回は必ず研究推進部会を設定するよう、時間割調整を早期に行い、計画的に推進部会を開催することができました。その結果、研究主題の実現に向けて、全職員で取り組むことができたと思います。

小郡中学校の研究概要 小郡中学校では、研究主題「見通しをもって、主体的に学ぶ生徒の育成」を目指し、【スタディ・ログ】、【ICT を活用したアウトプット活動】、【振り返りシート】、【仲間とつながり、共に育つための学習の心得十か条】の手立てを日常の授業で取り組むことで、「思考力・判断力・表現力」、「価値や解決策の創造」、「自己調整力」を高めています。特に、「アウトプット」7:「インプット」3の授業構成、生徒が自己選択・自己決定することを通して、生徒が「主語」の授業に挑戦しています。



授業・めあて・授業者	公開授業のよさ
1年2組【総合的な学習の時間】 「プレ万博を振り返り、パビリオンの改善点を見つけよう」 松島 光 先生	 プレ万博で出た課題をグループで話し合い、改善点を出し合いました。スタディ・ログや他のグループからのアドバイスを基に自己調整しながら、主体的に学習に向かう姿がありました。
1年3組【保健体育】 「自分に合ったストレスへの対処法を見つけよう」 吉村 凌征 先生	 インターネットや書籍などを自分で選択して、ストレスの原因、対処法などを調べ、自分に合ったストレスの対処法をまとめました。タブレットを使い友達に説明するアウトプットの場面が設定されていました。
2年1組【理科】 「静電気にはどのような性質があるか調べよう」 佐藤 拓也 先生	 静電気の性質を調べるために、様々な物質が準備され、生徒たちは、自分で好きな物質を選び、静電気が発生しやすい組み合わせや発生しにくい物質を、実験を通して見付けていきました。
2年2組【美術】 「『透かし』の効果を活かした切り絵のデザインを考えよう」 木村 友香 先生	 自分で考えたうちのデザインに合う背景を透かしながら確認し、友達から意見をもらうことで改善点や修正案を考える授業でした。背景を何度も差替え、自己調整しながらデザインを見付けていました。
3年2組【英語】 「海洋ごみ問題について学び、感じたことを自分の言葉で発表しよう」 中山 瑞樹 先生	 発表に向けての評価基準を提示して生徒一人一人が個別のめあてを設定し、ペアを変えて発表を繰り返すことで、自分の英語表現をよりよいものに改善していく「学びの調整」が見える授業でした。
オレンジ2【自立活動】 「色々な視点から自分を見つめ、自分のことをたくさん伝えよう」 今村 綸斗 先生	 「タイムマシンで行ってみたいところ」といったいくつかのお題の中から自分の選択したカードを選び、その回答を友だちに紹介し合いました。最後まで共感的に聞き合い、日常の関係性のよさが伝わりました。
オレンジ4【生活単元】 「スイートポテトの作り方や必要な材料の分量について調べよう」 前間由依子 先生	 スイートポテトの作り方の手順を写真で確認しながら、レシピの大切な言葉にアンダーラインを引いて確認し、友だちと協力して必要な材料の分量や実際に購入する個数を計算することができました。

参加した先生からの感想

- 総合の授業を参観して、松島先生をはじめとする小郡中の先生方が生徒の実態、地域課題に向き合い、真剣に考えて教材化されたものと分かり、自校でも前年踏襲ではなく、生徒の実態に合わせた総合を考えていきたい。(中学校教員)
- 中学校は授業も落ち着いて、タブレットも使いこなし、自分たちで学習を進めていたので感心しました。(小学校教員)
- 中学生がタブレットを活用する姿を見て、小学校段階で、タイピングや共有ノートの操作を指導して、積み重ねて行くことが大切だと感じました。(小学校教員)
- スタディ・ログが生徒の振り返りだけでなく、欠席者の学習保障や家庭学習でも活用でき素晴らしい。(中学校教員)
- ICTの活用だけでなく、子どもたちの返事、あいさつやお礼の言葉など、態度面も素晴らしかった。(小学校教員)